

平成23年度第1回 国土交通省東京航空局 入札監視委員会
審議概要

開催日及び場所	平成23年6月6日（月）霞が関合同庁舎第2号館共用会議室2A	
委員	委員長 浅野 正一郎（国立情報学研究所教授） 委員 廣渡 鉄（弁護士） 委員 高田 和幸（東京電機大学准教授）	
審議対象期間	平成22年10月1日～平成23年3月31日	
抽出案件	総件数 3件	
工事 建設コンサルタント業務等 役務及び物品等	一般競争	1件
	一般競争	1件
	一般競争	1件
各委員からの意見・質問、それに対する東京航空局の回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	特になし	

審議概要

意見・質問	回答
<p>1. 工事(一般競争入札方式)</p> <p>「新千歳空港低視程誘導路中心線灯設置その他工事その2」について</p>	
<p>○今回は評価点が高く、かつ、金額も安いということで逆転はなかったが、逆転する場合もあり得る。逆転する要因としては技術提案の部分が最も差が付きやすいところだが、技術提案の評価はどのように行っているのか。</p> <p>○資格要件に「航空法施行規則第117条の飛行場灯火の設置工事の実績」とあるが、実績を積む機会が多々あるのか。つまり、実績作りができる状況なのか。</p> <p>○1者応札に比べ2者が参入したことは良かったがそれ以上の者の参加は期待できないのか。</p>	<p>○技術提案の評価については、内部で構成するVE審査会及び入札審査会において評価項目の設定やその評価方法等について審査するほか、外部有識者で構成する総合評価委員会を通じ、外部有識者のご意見も伺いながら、評価を実施しています。</p> <p>○実績を積める状況はあります。例えば小規模な空港での工事においては、資格要件を広範囲にしており、こうしたところで実績を積むことで、今後の参加が可能となります。</p> <p>○他の有資格者が応募しなかった理由については把握していません。因みに本工事の有資格者は49者であり、3者が資料を取りに来ましたが、1者は製造メーカーでした。</p>

審議概要

意見・質問	回答
<p>2. 一般競争入札(その他の業種)</p> <p>「羽田仮設VOR/DME他2施設敷地選定」について</p>	
<p>○新規参入業者の可能性はあるのか。</p> <p>○入札参加できる業者は何者いるのか。そのうち今回参加した業者はどれくらいか。</p> <p>○現地調査を行なうのであれば、青森の調査は別で発注した方がいいのではないか。</p> <p>○本設と仮設の離隔距離はどの程度か。</p> <p>○施設の更新周期は何年か。</p> <p>○1者しか入札に至らないケースも見受けられるところ、今回は4者の入札があった。その理由を整理しているか。</p>	<p>○防衛省、空港株式会社等で参加条件の設計実績があれば参加することが可能です。</p> <p>○対象となる有資格者は、A等級で7者、B等級で3者、このうち、参加したのはA等級が1者、B等級が3者です。</p> <p>○参加可能な業者が東京に集中していることと、同じ内容の設計を一括で発注することで、経費等を抑えることが可能と考えています。</p> <p>○電波干渉を防ぐため、250m以上の離隔が必要です。</p> <p>○概ね13年で更新する予定です。</p> <p>○このような調査には、いつも4者程度の入札があるため、理由については特に整理していません。</p>

意見・質問	回答
<p>3. 物品の製造(一般競争入札方式)</p> <p>「東京国際空港第2ASR/TX局舎無停電電源装置(製造・設置・調整)」</p>	
<p>○何故、3月下旬の発注となったのか。</p> <p>○無停電電源装置を製造する業者は何社あるのか。</p> <p>○50kVAのUPSはレーダーでは標準的な容量なのか。</p> <p>○20kVA位の小型品など同様なものは一品ごとではなくてまとめて調達するとか、特殊なものを除いてレーダーなど同様なシステムを構成しているものは、まとめて調達することによって価格が下げられるのではないか。</p> <p>○定期的に交換が必要であるバッテリーなどはまとめて調達することはできるのではないか。</p> <p>○東京管制部や地方局で調達する場合も技術的な仕様は合わせて調達しているのか。</p>	<p>○補正予算で措置された事業なので、発注時期が3月下旬となりました。</p> <p>○5社程度です。</p> <p>○近年、無線機器の容量が小さくなってきているので20kVA程度のももありますが、本件は75kVAから50kVAに更新するもので容量は小さくなっています。なお、東京航空局で一番大きいものは250kVAのものもあります。</p> <p>○無停電電源装置は20年程度で更新を行っていますが、更新年次が違う場合は、別々に整備することになります。</p> <p>○バッテリーについては、更新周期が合うものについてまとめて調達しています。</p> <p>○仕様書は本省で共通仕様書を制定していますので、基本的な考え方は統一されています。</p>